

■日程：2024年6月5日（水）～6月8日（土）

■ボランティア参加者数：17名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
6月 6日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋公民館	14名
6月 6日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	34名
6月 6日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	11名
6月 7日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	50名
6月 7日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	33名
6月 7日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・いつ災害が来ても大丈夫なように、寝巻は着ず部屋着で寝ている。先日また地震があったので怖い。
- ・仮設住宅はものを多く持っていけないから、全壊した家の納屋に荷物を置いたままにしている。
- ・自分の家が全壊し、解体の手続きをしたいが心の整理がつかずなかなか進まない。
- ・春野菜を育てて寄り道パーキングで販売していた。今は自宅用のナス、トマト、かぼちゃなど。
- ・珠洲焼は人が集まって魚を焼いたり酒を呑んだりギターを弾いたりしながら1週間ほど焼き続ける。珠洲焼のように人は話をして協力していかないと生きていけない。こういうコミュニティは大切。
- ・この地震で沿岸部は大きなダメージを受けた。
- ・久々にこんなに笑った。来てよかった。前は能登半島、ズンドコ節を歌って楽しかった。
- ・避難生活していたため、自宅を確認しに来た市の職員に空き家と診断されそうになった。
- ・少しずつ家の中の片づけをしているが道が狭く車が入りづらい。運ぶのが大変。
- ・自分は仮設住宅に入れたが、親は準半壊で仮設の申し込み自体ができない。実態は住めないのに。梅雨時期や冬、今後は心配。
- ・草むしりが趣味で草からパワーをもらっている。
- ・学生ボランティアで参加。これまでは子供向けの活動をしていた。震災後、先生からサロン活動への参加を提案され、今日は有志8名で来た。活動は15時までだけど時間が過ぎてほしい。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・地域のコミュニティが出来ていて、住民同志の情報交換の場になっている。楽しく交流できる場を提供することこそが活動の醍醐味だと感じた。
- ・全壊した家の隣で畑の手入れをしている方に出会い、震災の後も止まらない、止められない生活があってそれが生きがいになっていると感じた。テレビからは伝わらない光景だった。
- ・高校生がボランティアに参加してくれた。ボランティアと住民とが会話するきっかけになるようなオリエンテーションがあればいいと思う。

